**さつき松原遊歩道**

さつき松原遊歩道は、宗像の海岸沿いにある「さつき松原」の一部を通る、舗装された歩道です。この遊歩道は、北斗の水くみ海浜公園の近くから始まっており、長さは約1.5kmあります。この歩道からは、大島と地島を見ることができます。

晴れた日には、約60km離れた沖合に沖ノ島を見ることができます。沖ノ島は聖なる場所であり、訪れることはできません。

ここにはじめて松の木が植えられたのは400年以上前です。17世紀初めに筑前 (現在の福岡県の一部) を支配していた黒田長政 (1568～1623年) の指示の下で松の木が植えられました。この松原は、彼が海岸線を浸食から守るためにこの地域に植えた8つの松原のうち最初のものでした。現在の松の木のほとんどは、樹齢200年ほどのものです。地域の人々は、この松原が残り続けるよう、新しい松の苗木を植えています。さつき松原は、鐘崎と神湊の間の海岸に沿って5.5kmにわたっています。

さつき松原沿いには自転車道があります。自転車道は、「道の駅むなかた」から始まり、宗像一帯の主な見どころを巡ります。「道の駅むなかた」は、さつき松原遊歩道から歩いて数分の休憩施設です。さつき松原前の浜辺は、夏には人気のある海水浴場になります。